



診察室

ざっくばらん

原因も複雑に 訴えに耳傾け

高齢者の「ふらつき」

年を取ると、ふらつきで転びやすくなる。腰や足の骨でも折ればエライことになる。

86歳のT子さん。高血圧と不眠で、20年ちかく通院している。年齢とともに、体のアチコチの具合が悪くなる。ワケの分からない症状も増えてくる。今回は、「10分ほど立っていることがつらい。頭がボーとする。歩いていけるうちに治るけど、薬のせいでは？」ときた。急に立ち上がった時の立ちくらみはないと言う。血圧は上が134、下が86と正常だ。T子さんの脳をMRI（磁気共鳴画像装置）で調べてみる。が、以前からある脳梗塞が見えるだけだ。それは、ふらつきとまったく無関係と

は言えないだろう。が、原因にはならない。で、ふらつきは、夜中や、朝方には起きない。睡眠薬の関係もなさそうだ。そういえば、この頃、Tさんも足腰が弱くなってきた。さては、加齢に伴うロコモ（運動器症候群）のせいかと考えたくなる。が、歩くときふらつきがなくなるこの説明がでない。

だいたいが、なんでも年齢のせいにしては失礼ではないか。高齢の患者さんでは、目まいやふらつきの原因も複雑になるのだ。ヤブ医者の理屈には合わない訴えが多くなる。加齢とともに、体のバランスを取る前庭神経を含め、脳の老化は避けられない。動脈硬化や糖尿病、パーキンソン病や自律神経障害なども隠れ持っている。

ワケが分からないなら、患者さんの訴えに抵抗しないというのが本当だろう。まずは、T子さんの希望通り、降圧剤を弱くしてみよう。なんと、血圧は少々上がったが、訴えがなくなったではないか。10分間くらいの起立で、なぜか普段以上に血圧が下がり、脳の血流が少なくなっていたのかも知れない。そんなことは、教科書に書いてないか。ま、理屈なんかどうでも良い。

（石黒修三 いしごろクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）



イラスト・野畑桃花